



開物成務

平成30年 6月 1日(金)発行

校長 津田 将美

5月15日の朝会、教頭先生のお話です。

「延沢にお住いの方から、うれしい連絡が入りました。いつも、小学生や中学生があいさつをしてくれるのが、とてもうれしいそうです。その日の夕方は、1年生がとてもいいあいさつをしてくれたということです。とっても気持ちよかったので、子どもたちや先生方に伝えてください、とのことでした。」

ちょうど神奈川県が5月を「手話月間」と位置付けていることで、心をつなぐツールのお話の中で紹介されたものです。相手と心をつなぐ方法は、言葉だけではありません。手話もあいさつや笑顔も、心をつなぐ大切なものです。きっと、その1年生は、多くの人と心をつなぐことのできる「豊かな心」をもつ「すてきさん」なんでしょう。

「いい顔も悪い顔も、人から人へとうつつっていく。人の心をやさしくすてきにする『いい顔』をたくさん人に向けられる『すてきさん』になってください。」

教頭先生は、こうお話をしめくくりました。子どもたちは、いい顔で聞いていました。

開成小学校の東の歩道橋に、毎朝、細谷安子さんが立ってくださっています。もう登校時に立ち始めて、12年経つということです。毎朝、子どもたちの安心、安全を見守ってくださって、本当にありがたいことです。

道路をはさんで、向こう側を歩いている子に、指でブロックサインのようなものを送っていました。そのサインに気が付くと、その子は安心したように「にこっ」と笑って学校に向かいました。

「もしかしたら、時間を教えているんですか？」

「遠くの子には、こうして伝えているんですよ。」

あわてなくて、だいじょぶだよって。」

穏やかな顔で、細谷さんはそう答えました。

細谷さんの側を通る子は、みんな笑顔であいさつをして通ります。ちょっとうれしくなって、ふだんの様子をお聞きしました。

「子どもたち、あいさつはどうですか？」

「元気にできる子が多いですよ。でもね、やっぱり苦手な子もいます。そんな子には、ねばり強く声かけをするんですよ。小さなことでもいいから、話題を見つけて声をかけ続けていくんです。そうすると、少しずつ心を開いてくれるんですよ。」

なるほど、あいさつは心のあり方が大きく影響するものです。心が前に向かないと、元気で気持ちいいあいさつは、なかなかできないもの。でも、強引にさせようとするのは逆効果です。細谷さんのように、腰を据えたねばり強さとあたたかい心が必要なんだと改めて思いました。

あいさつは、心をつなぐかけはし。…そう考えると、細谷さんが向けてくださる子どもたちへの笑顔も、子どもたちにとって、すてきなあいさつなのかもしれません。



体験的な学びから

5年生 林間学校 5月17日(木)・18日(金)

修学旅行に引き続き、全く天気心配のない2日間でした。この日を楽しみに、準備を重ねてただけあって、子どもたちの顔は、希望にあふれていました。重い荷物をしっかり背負って、確かな足取りで学校を後にしました。

私がふれあいの村に着いたのは、ちょうど写真のように食事の後片付けをしているところでした。顔や服をすすで真っ黒にしながら、どの子も一生懸命片付けをしています。



食事後の片付けの様子

「カレーライス、すごくおいしかったよ。」
「ごはんが、パサパサだった…。でもおいしかった。」
「ごはんも、カレーも、すごく上手にできたよ！」
それぞれの味が思い出の味。きっと仲間との努力や協力をかみしめながら味わったんだろうな…、と思いました。

片付けをしながら、たくさん子どもたちが、協力して仕事をしたこと、力を合わせて火を起こすことのできた感動、それぞれが感じたそれぞれのカレーライスの味、メロンパンが楽しみなこと…などなど、自分の言葉で伝えてくれました。

キャンプファイヤーも、大いに盛り上がったようです。

翌日、学校に戻ってきた子どもたちは、とても疲れた顔をしていました。よくぞ、重い荷物を持って、歩き切りました。これもまた、自分の力になる大きな思い出です。

疲れた顔をしてながらも、解散式ではいっしょに行った先生方のお話をよく聞いていました。

感心したのは、その日の朝の施設清掃を、とても一生懸命がんばったというお話です。どの先生も口をそろえるようにそのことを褒めていました。楽しい活動は、ともすれば、心が浮足立ち、地道で大切な活動に力が入らないこともあるのですが、疲れがたまる最後の活動を心をこめて、協力してできたことは、すばらしいことだと思います。

生き生き活動するすてきさん。6年生の修学旅行に引き続き、5年生もそういう「すてきな」姿を大きな行事の中で見せてくれました。

3年生遠足 小田原方面

5月22日(火)

3年生になると、それまでの生活科から、社会科と理科の学習が始まります。今回の遠足では、生命の星地球博物館で地球や地域の自然について学び、かまぼこ博物館においては、地域の産業について学んできました。いわゆる、社会科、理科の体験学習のスタートです。

学校では学ぶことのできない展示や映像などから、子どもたちは目を輝かせながら、多くのことを学ぶことができたようです。何よりも、そのような興味・関心がこれからの社会科、理科、総合的な学習の時間の学ぶ意欲につながっていくはずです。

このような体験的な学びが、「考えを磨き合うすてきさん」を育てていきます。



生命の星地球博物館でお弁当



かまぼこ博物館

1年生遠足 南足柄市運動公園

5月25日(金)

「行ってきま～す！！」
1年生のあいさつは、いつも元気です。この日も最高の元気でスタートしました。絶好の晴天で気持ちのいい日でしたが、暑くなりすぎるのが心配でした。

担任も暑さを配慮し、休み休みに給水を取りながらの行程だったようです。無事に全員が公園に到着すると、元気いっぱい遊び始めました。昨年の1年生の遠足では、メインの遊具が使えずに、主に広場での遊びだったようですが、今年は遊具も自由に使い、すべり台にアスレチックと縦横無尽に動き回り、とても楽しい時間を過ごせたようです。

たくましい1年生は、帰りもしっかりと歩き切りました。帰ったときの1年生の顔は、トマトのように真っ赤にきらきらと輝いていました。どの子も疲れを見せずに、楽しかった1日がその表情からあふれていました。



楽しい遊具遊びとおいしいお弁当～運動公園にて～